

令和元年度 佐賀県立多久高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	
○「自分の夢を形に」	「授業」「愛」「自主」「創造」のもとに、教職員と生徒が敬愛と信頼のなかで、文教の風華を校園の創造をめざすとともに、自らを學ぶ者として、自然に向かおうと挑戦する意欲を持ち、その実現へ前進する「知」「徳」「体」の調和のとれた、心身ともに健全な生徒を育成する。
○めざす生徒像	「仁義」：すべての人を見心から尊重し大切にすること。 「自主」：行事にも積極的に関わり自らを成長させること。 「健康」：健康で心豊かに暮らすこと。 「礼儀」：礼儀正しく、思いやりのある豊かな心。 「責任」：行事にも積極的に取り組むこと。 「礼儀」：礼儀正しく、思いやりのある豊かな心。 「責任」：行事にも積極的に取り組むこと。 「健康」：健康で心豊かに暮らすこと。
○各系列が設定する具体的な生徒像	・人文科学系系列・・・言語や文化、自然現象を科学的に捉える知識・教養を持ち、コミュニケーション能力を身につけた生徒 ・健康福祉系系列・・・福祉のスペシャリストをめざし、その知識・技能とともにノーモライゼーションの精神を身につけた生徒 ・商業ビジネス系系列・・・多岐にわたる分野で斬新かつ先進的な知識・技能をマーを身につけた生徒 ・工業技術系系列・・・工業を通じて自らの技術を磨き、工業やデザイン分野での次世代を担う人材となる知識・技能を身につけた生徒
2 本年度の重点目標	
①わかる・力がつく授業の実現、キャリア教育の充実、進路意識の向上 ②学ぶための環境づくり ③生徒会活動・部活動の活性化 ④働き方改革・部活動の活性化 ⑤働き方改革・部活動の活性化	
3 目標・評価	

達成 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや十分である
D:十分である

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学びの場としての質	基礎学力の定着	学習習慣の定着	全校で補習の学習を実施し、基礎学力、学習習慣の定着を図る。	A	学びの場としての質の向上に向けて、朝の学習の時間を継続的に活用し活動することができた。	家庭学習の定着に向けて、各クラスでの課題の工夫を行う。また朝の学習で使用する教材についても教科書が対応していない。
	教育活動	●自己表現力の育成	自己表現力の育成	伝えることを目的とした表現力の向上を図る。 1年：宿泊体験学習「LHR」、「産業社会と人間」を通して実施する。 2年：インターシップやボランティア体験、その後の発表活動を通して実施する。 3年：1分間スピーチの実施、発表会において実施する。	A	1年生では各自で制作したライブプログラムを、2年生ではそれぞれ自己表現力向上のための成果発表会を実施し、3年生では総合学習の時間に行なった研究発表クイズやポスター発表を行った。また授業参観イベントでも、1分間スピーチ実践も実施された。	1分間スピーチについては、まだ本格的に取り組んでいない。また発表活動を実施する際には、まだ本格的に取り組んでいない。
		●資格取得の専門性	資格取得の専門性	人文系系列を中心に履修する生徒に対して、進路希望に応じた学習のサポートを充実させる。	B	3年生では、昨年度より、Dランクの割合は減少したが、現2年生では、Dランクが若干増加している。現3年生は、前年度の学年に比べても学力は向上しており学力向上が、進路決定の場面でその能力の高さは評価された。	教科指導はもちろぬこと、学校生活全般(面接や検定・検修など)の指導を徹底し、落ちついた環境の中で学習に取り組むことが何より大切だと思うので、教科指導を学校生活について、全員の成長環境を整えていきたい。
		●専攻科目の専門性	専攻科目の専門性	医療看護コース 2年においては、基礎学力診断テストにおいて全員Bランク以上を目指す。また、3年生においては、国立公立大学及び高等専門学校合格者を複数出す。 工業技術系系列・・・二級技能士(旋盤・保冷)などの取得向上。ジュニアエンジニアリング10名以上、そしてEコマースなどの取得を目指す。 健康福祉系系列・・・介護職員初任者研修における介護実習において施設との連携をはかり、介護職としての実践及び人間性の向上を目指す。福祉住居環境コーディネーター3級検定合格7割以上を目指す。 商業ビジネス系系列・・・3種目以上1級取得10名以上、高度資格取得をめざす。	B	医療看護コース 2年においては、基礎学力診断テストにおいて全員Bランク以上を目指す。また、3年生においては、国立公立大学及び高等専門学校合格者を複数出す。 工業技術系系列・・・二級技能士(旋盤・保冷)などの取得向上。ジュニアエンジニアリング10名以上、そしてEコマースなどの取得を目指す。 健康福祉系系列・・・介護職員初任者研修における介護実習において施設との連携をはかり、介護職としての実践及び人間性の向上を目指す。福祉住居環境コーディネーター3級検定合格7割以上を目指す。 商業ビジネス系系列・・・3種目以上1級取得10名以上、高度資格取得をめざす。	B
	●図書利用	図書利用の推進	ICT機器の活用	ICT機器の活用	B	図書利用の推進を図る。図書利用の推進を図る。図書利用の推進を図る。図書利用の推進を図る。	近年図書・検定の難易度が上がり、生徒の合格率が伸び悩んでいる。その影響から上位資格に合格する生徒が近年減少している。現状に即してプロセスを11月に刷新すると、本年度に向けて実施したい。
	●特別活動	生徒の生活指導	生徒の生活指導	生徒の生活指導	B	生徒の生活指導	生徒の生活指導

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	●生徒指導	思いやりの心、豊かな心、豊かな心、豊かな心	思いやりの心、豊かな心、豊かな心	思いやりの心、豊かな心、豊かな心	A	規範意識の向上のために、朝の非公式集まり・校門での挨拶指導を行い、一層規範意識の向上を図ることができた。	愛の心の育成は、積み重ねでも規範意識を醸成していく必要がある。生徒を軸とした活動、学校教職員と保護者と地域と一体となった活動をやり強く継続していきたい。	
	●図書利用	図書利用の推進	図書利用の推進	図書利用の推進	B	事前に複数回の図書委員会を実施し、各クラスにおいて図書委員を中心とした図書利用の推進を図ることができた。	生徒の事情により、8月に行われた県内合同図書会では不参加という形になってしまった。県内図書会を軸として、生徒が校外の行事に積極的に参加できるようになる指導を考えた。実践していく必要がある。	
	●心の教育	不登校等の問題の早期発見・早期解決	不登校等の問題の早期発見・早期解決	不登校等の問題の早期発見・早期解決	B	担任が中心となり、生徒の観察・状況把握はよく出来た。対応については、係長や上級生、協力体制を整えることが出来なかった。別室登校の定義や対応、対応の必要性を感じている。	生徒の生活状況を、情報共有を促進し、一人で抱え込まないよう職員全員が当事者意識をもって協力するよう体制作りをした。別室登校の定義や対応の必要性を感じている。	
	●健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	A	毎日の健康診断を徹底し、月1回(年間12回)程度の検診を行う。また、可視化を図る。健康診断の徹底を図る。健康診断の徹底を図る。健康診断の徹底を図る。	毎日の健康診断を徹底し、月1回(年間12回)程度の検診を行う。また、可視化を図る。健康診断の徹底を図る。健康診断の徹底を図る。健康診断の徹底を図る。	毎日の健康診断を徹底し、月1回(年間12回)程度の検診を行う。また、可視化を図る。健康診断の徹底を図る。健康診断の徹底を図る。健康診断の徹底を図る。
	●特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動の充実	生徒会活動の充実	B	リーダー等が各担当をこなす一方、家庭の準備を考へて生徒を相手に出来るよう働きかけた。文化祭の準備コンクールでは人数が減少したことで準備が難しくなった。また、各種のイベントに積極的に参加し、生徒の成長を促した。	リーダー等が各担当をこなす一方、家庭の準備を考へて生徒を相手に出来るよう働きかけた。文化祭の準備コンクールでは人数が減少したことで準備が難しくなった。また、各種のイベントに積極的に参加し、生徒の成長を促した。	今年度(昨年度)の取り組みを継続して実施したが、園の盛り上がりには足りないと感じた。男女別の課題があるが園編成は2回、または3回への変更が望ましい。よりよい活動を目指したい。
	●特別活動	部活動の活性化	部活動の活性化	部活動の活性化	A	部活動の活性化	部活動の活性化	部活動の活性化

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	A	健康・体育	健康・体育
	●特別活動	部活動の活性化	部活動の活性化	部活動の活性化	A	部活動の活性化	部活動の活性化
	●健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	B	健康・体育	健康・体育
	●特別活動	部活動の活性化	部活動の活性化	部活動の活性化	A	部活動の活性化	部活動の活性化
	●健康・体育	健康・体育	健康・体育	健康・体育	A	健康・体育	健康・体育
	●特別活動	部活動の活性化	部活動の活性化	部活動の活性化	A	部活動の活性化	部活動の活性化

4 本年度のまとめ	本年度のまとめ	本年度のまとめ	本年度のまとめ	本年度のまとめ	本年度のまとめ	本年度のまとめ	本年度のまとめ
-----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

●は共通評価項目、○は独自評価項目

【資料3 - 1】

学校関係者評価書

佐賀県立多久高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和2年2月14日(金)

(2) 評価者氏名 田中 忠 光岡 潔和

(3) 資料(評価の参考とした資料)

- 佐賀県立多久高等学校令和元年度学校評価結果
- 学校評価アンケート(保護者用・生徒用)集計結果
- 令和元年度進路結果
- 学校だより 他

2 評価

(1) 学校運営・教育活動について

目標の妥当性及び達成状況

各評価項目に対しての達成度に対して、C,Dはなく、B(概ね達成できた)以上であり評価できる。

学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

成果と課題や具体的な改善、向上策の分析を明確にされておられますので、次年度に向けてその取り組み、実践を期待するところです。

改善方策の適切さ

成果と課題や具体的な改善、向上策の分析を明確にされており、次年度に向けてその取り組み、実践を期待します。

3 その他学校に対する意見や提言

学校評価の推進や職員の意識改革について

○現在実施している、少人数学級編制について、地域からの評価が高い。学校の負担の問題もあると思うが、可能であれば次年度以降も実施してほしい。

校内の教育活動の改善・充実について

○保護者の評価について、学校評価アンケートでは、保護者の約90%が学力向上と人間力向上に力を入れていると回答しており、大変評価できる。

校外への情報提供について

○近隣中学校へ出向き、中学3年生の担任へ直接情報提供を行っているが、引き続き実施していただきたい。

保護者や地域と連携した教育活動の改善・充実について

○小高連携事業について、ケーブルテレビ等でも毎年取り上げられており、地域の高校として、地域連携をさらにすすめて欲しい。

在校生の中にも、この体験を経験して本校を選んだ生徒もあり小学生のうちから高校生と交流できる貴重な体験で、将来を見据えることができる。

【資料3 - 1】

学校関係者評価書

佐賀県立多久高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和2年2月14日(金)

(2) 評価者氏名 教育後援会評議員

(3) 資料(評価の参考とした資料)

○佐賀県立多久高等学校令和元年度学校評価結果

○学校評価アンケート(保護者用・生徒用)集計結果

2 評価

() 学校に対する意見や提言

○令和元年度学校評価結果及び令和元年度学校評価アンケート結果について

【評議員 A】

生徒の学校評価アンケートでは、学校行事や教育相談的な対応、本校への満足度等で「やや違う」との割合が10%を超えているようだが、このことについて学校はどのように分析しているのか。

【教頭】

同アンケート結果の保護者の集計結果をご覧いただくと、たとえば本校への満足度については、保護者は高い割合で、満足している。アンケート結果では生徒・保護者の要望部分が反映されていると考えている。

【評議員 B】

学校の進路指導が充実しており、希望した企業に就職することができた。

【教頭】

本年度の就職試験では、第一希望の企業にほとんどの生徒が合格した。これは景気が好調であることもあるが、基礎学力の定着のためのマナトレや3年時のSPIの指導などが奏功していると考えている。今後とも進路指導の充実につながる指導を行っていきたい。